

## 【19】ダムを空爆せよ (The Dam Busters)

ダム貯水池には大量の水が貯えられているので、戦争の時は敵国のダムを破壊して人工洪水を起させ、敵地を荒廃させようと考えても不思議はありません。

第2次世界大戦のとき、イギリスはライン川流域のドイツのルール工業地帯を破壊しようとライン川支川のダム群を爆撃機で空襲する作戦をたてました。

しかし、ダムはコンクリート造ですこぶる堅牢ですから、ちょっとやそつこのことでは破壊できません。大型の4発爆撃機でしか運べない大型の爆弾をピンポイントでダムに命中させる必要がありますが、これはほとんど不可能なので奇想天外な戦法を考え出しました。

ドラム缶の形をした円筒型の5トンの大型爆弾を円筒の軸で回転させ、爆撃機がダム湖の水面スレスレの低空をダム目がけて突進します。爆弾を投下すると、この回転爆弾は、水切りの石投げと同じ原理で水面をスキップジャンプしながら飛んで行き、ダムの背面に衝突して湖底に沈みダムの基礎部で爆発し、爆発力と水圧との相乗作用でダムの破壊に到るというわけです。

原理は明解でも、実行に当たっては闇夜の山中で、大型爆撃機が水面上わずか18mを時速400kmで飛行し、実験で定められた距離ピッタリで爆弾を投下するという技術的超難関が控えていました。乗員の秀でた技量と勇気、そして数ヶ月にわたる厳しい訓練とでこれを克服したのです。

1943年5月に重爆撃機アプロランカスターが19機で攻撃し、8機が撃墜されましたが、貯水量1億3千万 $\text{m}^3$ のメーネダムと同2億2千万 $\text{m}^3$ のエーデルダム、さらにもう一つの小規模なダムを破壊し大洪水を起させ、ルール工業地帯に大きな損害を与えたのです。

日本人の特攻精神とは違った科学技術と冒険精神の発露であり、25歳の若い指揮官のガイ・ギブソン中佐は国民的英雄になりました。

以上の物語についてはいくつかの書も出版され、1955年(昭和30年)には映画化もされました。映画の原題は“Dam Busters”(ダムの壊し屋)ですが、日本で公開されたときの題名は、夜間爆撃の話なのにどういいうわけか「暁の出撃」となっていました。